

感動一点の場

『チベット風俗』
1983年 小川原 脩 画



小川原脩は、1981、82年と続けてチベットへ、そして翌83年にはインドの西チベット・ラダックを訪問。旅行後には個展「チベットーその聖と俗」を開催したのですが、このタイトルはそれから数年間を通して小川原の追求するテーマとなりました。それでは「聖」とは何を指しているのでしょうか。聖職者である僧侶、寺院、そして仏や神のお面などが作品中には登場します。どこか超然とした動物たちも聖なるものと言えるでしょうか。一方で「俗」とは、衣服や振る舞いをはじめ人々の暮らしの中に見られるものであり、そうした風俗もやはり、チベット仏教に関わる人が多いようです。

この作品には、道行く3人の女性が朗らかな様子で描かれています。手前中央のひとりは、それは大きな布状の荷物を背負っています。後ろ2人の片腕を脱いでいるコートのような衣服はチュバとよばれるもので、着方によって、高地の過酷な気候に対応しやすいと言われています。また、赤い色の長い数珠を手に見えています。小川原がチベットの人々を描くとき、首飾り、ひも飾りなど、赤い装身具が登場しますが、明るい黄土色の大地の色の中で、赤のアクセントが際立って見えたのかもしれません。チベットを描いた作品を見渡すと、小川原が何に心惹かれたのかが、じわりと伝わってきます。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

花言葉は「貪欲」ールピナスー

頬をなでる風が熱気を帯びる季節、色鮮やかな花で道行く人々の視線をひく植物の一つにルピナスがあげられるでしょう。もとは園芸用として北アメリカから持ち込まれたマメ科の多年性植物で、北海道の冷涼な気候は彼らが育つには適していたため、今では道端や空地などでよく目にします。

ルピナスをはじめ、マメ科植物の多くは「根粒菌こんりゅうきん」という、空気中から窒素を吸収・固定できるバクテリアと共生しているため、栄養の乏しい環境でも育つことができる性質を持ちます。河川敷など、もともと栄養が乏しい環境に入り込んでしまうと在来種の生存を脅かしかねないことから「北海道ブルーリスト2010」には外来種として掲載されています。今では観光ガイドなどで取り上げられることもあり、夏の北海道の風景として定着しつつあるようですが、それは本来の北海道の風景とは異なった「少しいびつな」北海道の風景だといえるでしょう。

そんなルピナスですが、人里離れた野原や山奥の林道でも群落を見かけることがあります。緑肥を目的に畑や庭に植えられることもあったようですから、もしかすると、そこにはかつて、にぎやかな人々の暮らしがあったのかもしれません。そう思うと、人知れず咲くルピナスの鮮やかな花の色が、少し寂しげにも見えます。



▲野に咲くルピナス（町内・6月中旬）

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

ふるさと探訪

459回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展 生誕110年記念「小川原脩 1911-2002」
会 期：開催中～7月11日(日)

小川原脩展 生誕110年記念「チベット紀行」

1979年からはじまり中国・チベット・インドへと続く小川原脩のアジア歴訪は、それまでの画業を見つめ直し、より自由で穏やかな精神世界を謳うかのような作品へと変化する契機になりました。本展ではチベット訪問を経て描かれた、深い精神性を湛えた小川原脩晩年の作品の数々をご紹介します。

会 期：7月17日(土)～9月26日(日)

■第2展示室

小川原脩挿絵展「蝦夷残侠伝」

会 期：開催中～7月11日(日)

しりべしミュージアムロード20回記念展「ザ・ベスト」

各館の代表的な作品を、それぞれの館が選んだ過去のテーマに合わせて持ち寄ります。当館は第1回目のテーマ「海と山と田園と」。

会 期：7月17日(土)～9月26日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン ①②③の会場はいずれも映像ルーム（無料）

①世界のグレートアーティスト(13)「イスラム フランス美術館所蔵展」
日時：7月3日(土)14時～15時 お話：柴 勤（館長）

②絵画で楽しむパリの情景(4)「憧れの街 パリ シャガール」
日時：7月10日(土)14時～15時 お話：柴 勤（館長）

③京都逍遙しょうよう(1) 千年の時を越えて（洛中一）
日時：7月17日(土)14時～15時20分 お話：柴 勤（館長）

④おとなの手しごと～パッと花咲く？折染め
日時：7月31日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）
お相手：沼田 絵美（学芸員） 定員：10名 ※要予約

■ギャラリー・トーク

「ザ・ベスト <海と山と田園と>」
日時：7月24日(土)14時～14時30分 会場：第2展示室（無料）
お話：沼田 絵美（学芸員）

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑦・⑧」
日時：⑦7月9日(金) ⑧7月23日(金) 各18時～19時
会場：映像ルーム（無料）
お話：柴 勤（館長） 定員：5名程度 ※要予約

倶知安風土館イベントのお知らせ

■ふるさと探訪（観察会）「イチヤクソウの仲間たちを探そう」

日時：7月17日(土)9時～13時 定員：8名（※要予約・先着順）場所：百年の森公園（現地集合）
講師：藤田 豊さん（北方山草会会員） 参加費：250円（保険代）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）
高 校 生 300円（200円）
小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
7月の休館日 毎週火曜日
美術館のみ12～16日
（展示替えのため休館）

夢を見た！

私が居るのは見晴らしの良い2階の図書館。素敵でデザイン椅子で朝から本を読んでいる。洋書も多く、異国の人もあちらこちらに。お昼は1階のカフェで腹ごしらえ、その後はDVDコーナーで戦前の映画を見るつもり。心地良い音色が聞こえてくる。そう、ここには小さくても響きの良いコンサートホールもあるのだ。子どもたちの楽しげな声は隣の絵本館から。小さなお子さんが遊具で遊んでいるのだろう。3階のギャラリーに展示されている友だちの写真、帰りがけに見ていこうかな。

こんな夢、たまには一緒に見てみませんか？

館 長 柴 勤しば つとむ